

## I 研究の概要

### 1 子どもを取りまく環境

本校区是那賀川下流域の平野部に位置し、豊かな水と肥沃な土地に恵まれた美しい環境にある。農業では、恵まれた水や土壌を生かしたいちごや早期米の栽培が盛んである。また、昔是那賀川水系を生かした木材産業で栄えていた。室町時代から受け継がれてきた足利氏の平島公方も有名で、「公方さん」にまつわる神社仏閣が地域に点在しており歴史も深い。

本校は、明治20年（1887年）、3つの小学校（大京原、中島、上福井）が統合され現在の平島小学校のかたちとなり、138年の長い歴史と伝統をもつ。子どもたちは、明るく素直な子どもが多い。児童数は270名（令和7年5月1現在）の中規模校で、異学年班による集会や遊び、清掃などの活動を日常的に行っている。異学年で構成される班で活動することを通して、より豊かな人間関係を深めることにつなげている。地域とのつながりも強く、校区の東端の海沿いにある防波堤に毎年6年生が卒業記念として「壁画」を描く行事は、地域の方の子どもたちへの熱い思いや支援を得て行っている。秋には、校区を異学年班で歩くオリエンテーリングを実施しており、校区に親しみをもちながら、活動の中で上学年が下学年のことを思いやりともに行動するなど、学年の枠をこえて絆を深めている。

また、金管バンド部などの文化的活動や水泳・陸上などの運動的活動も盛んで、子どもたちは多様な面で活躍している。

### 2 本校が大切にしていること

わたしたちは、『自分でしっかりと考え、判断し、行動できる子ども』を育てたいと考えている。情報化社会が急速に進み、わたしたちの生活は快適で便利になってきたものの、あまりにも効率的に処理することが重んじられたり、手間をかけなくてもいろいろな情報を得ることができたり、人とのつながりが情報機器を介して築かれたりすることもある。いろいろな情報であふれかえり、意図的につくりあげられた情報が、あたかも本当のことであるように受け入れられることもある。子どもたちの身の周りは一見すると豊かになってきたように見えるが、果たしてそうなのだろうか。子どもたちの学びや育ちにとって、大切なものが軽んじられていないだろうか。

このように社会が複雑化し急激に変化する中、子どもたちの学びや育ちをどのように支援していくのか、どのような力を身につけさせるのか。子どもたちが、社会の急激な変化に翻弄されず、主体的に生きていくには、「自分でしっかりと考え、判断し、行動できる力」を身につけさせたいと考える。そして、そのような力を身につけるためには、全ての教育活動を通して、自分の身の周りにある問題に気づき、それを自分事として捉え、解決していく経験を積み重ねていくことが重要である。

学習活動においては、知識・技能を伝え教える教師主導的なものではなく、子どもの「なぜ？」「どうして？」「やってみたい」から学習の切り口を見つけない。子どもが主体となって学ぶための原動力は何か。それは、これからの学習活動に自らの問いや目的意識をもっているかである。子どもの問いや目的意識を大切にし、子どもの思いや思考の流れに沿った学習内容を設定していく。そのためには、子どもがどんなことを問いとしているのか、それについてどのように考えているのか、どうしてそう感じたり考えたりしているのかという丁寧な子ども理解が不可欠である。丁寧な子ども理解があつてこそ、子どもたちが必要とするタイミングで、適切に子どもを支援、指導することができる。子どもたちが主体となり自分事として学習に取り組むことで、対話的で協働的な学びとなっていく。そこで、さらに新しい発見やさらなる問いがうまれ、深い学びとなっていく。つまり、「自らの問いを追求する」ことが学びそのものであると考える。